にしみたか学園

平成２７年度　にしみたか学園の評価・検証　結果報告

検証項目	（１）　人間力・社会力の育成 ○他者との適切な関係を構築する力の育成　○他者と共に自己実現を図っていく力の育成　○地域や社会等へ貢献する力の育成　○その他
目標	①異学年・異校種、地域の方との交流活動を推進する。 ②「にしみたかスタンダード」の実践
取組	①地域人財を生かした「小6中1交流活動」「職場訪問」「職場体験」や「地域清掃」等の充実を図る。 ②「にしみたかスタンダード」を学園共通指針とし、規律や生活習慣の確立に向けた取組を実践する。

成果	課題と改善方策
①様々な場面で様々な地域人財の活用が推進できた。教員以外の大人との関わりの中で学び、考え、発表する場面が設定できた。 保護者アンケート「地域との交流を進めている」の肯定的評価は、85.8％（前年－1.6ポイント） ①CS委員会教育活動支援部が地域人財の交渉に関わる等主体的に行動できた。 ①児童生徒からは、「専門的はことが体験できた」「地域の顔見知りの人だったので安心した」地域の方からは、「貢献している実感があった」「学校が理解できた」等の感想があった。 ②「にしみたかスタンダード」を指針として9年間を見通した生活指導・学校での指導を通した望ましい学習習慣の確立に取組めた。 ②児童・生徒アンケート「学校や地域では、ルールを守って生活している」の肯定的評価は、91.9％（前年度＋9ポイント）保護者アンケート「家庭学習の習慣ができている」の肯定的評価は、68.3％（前年度＋0.9ポイント）	①サポート実績数は、1学期1241名（前年度－387名）2学期1180名（前年度＋94名）である。 ①サポート隊名簿（人財リスト）の整備と地域人財情報の把握が課題である。登録しないままの活用も多くある。 ①中学校においては、家庭科等の実技教科への活用は定着してきている。 ①年度当初の地域人財募集の案内配付に加え、事案ごとにも早目の広報・募集を行う。また、制度自体の広報も頻繁におこなう。 ②「にしみたかスタンダード学校版・家庭版」の定着が課題。全教室掲示を行う。家庭版は「にしみたかカレンダー」に今月の取組みという形で紹介し、定着を図る。

検証項目	（２）　学校運営について ○小・中一貫教育校の学園組織の活性化　○小・中一貫教育校の教員間、学校間の交流の円滑化　○小・中一貫教育校の校務、会議の効率化　○その他
目標	①計画的な会議運営を行う。 ②学園研究会を充実させる。
取組	①「学園校長会」、「学園合同職員会議」「主任会」「学園運営委員会」を計画的に運営する。またその内容の周知徹底を図り、学園の一体感を醸成する。 ②学年を中心とした分科会から教科を中心とした分科会に改編する。

成果	課題と改善方策
①学園長会・学園経営会・CS役員会・CS委員会・合同職員会議・学園運営委員会・学園主任会・学園研究会の日時程を「にしみたか学園会議等日程」として年度当初に教職員およびCS委員に配布したことにより計画的運営ができた。 ①必要に応じて回数の精査ができ円滑化効率化を図ることができた。 ②学園研は、9科＋教育支援の10分科会を設定した。少人数の良さ、興味関心の高さ、教科の特性、9年間のつながり等々が教員からも高い評価であった。 ②教育支援分科会主催の研修会も設定でき好評であった。	①学園経営会議は三校長のみであったので必要に応じて副校長を含めた会を設定した。当初から計画化をしていく。 ①共通ファルダやメールの活用を推進し会議の精選を一層進めていく。 ②10分科会共通の方向性や共有化が不十分だった。 ②学園研と校内研が混同がおきた。 ②学園研のアンケート結果を生かしながら組織を構築していく。

検証項目	（３）　小・中一貫教育校としての教育活動 ○小・中学校間相互乗り入れ授業　○小学校相互、小・中学校間の児童・生徒の交流活動　○小・中学校教員の合同授業研究等の学園研究会 ○キャリア教育及びそれに基づく小・中の系統性と連続性を明確にした授業実践、授業改善の状況　○その他
目標	①小・中の相互乗り入れ授業の充実 ②児童・生徒会代表者会議を充実させ、そこでの内容を交流活動に生かし、活性化を図る。
取組	①毎週の乗り入れ時間割を掲示し、全員に周知する。 一貫カリキュラム、ねらいを確認し、打合せを密にとり乗り入れ授業を充実させる。 ②児童・生徒緒交流活動の充実に取組む。

成果	課題と改善方策
①コーディネーターが「乗入れ授業」の時間割（時間・場所・単元・乗り入れ者等を明記）を1週間ごとに作成し掲示した。また、乗り入れの際は、職員室にあいさつをすることを徹底した。それらのことで当事者だけでなく全員に周知できた。 ①指導の実態に合わせ、また9年間の継続した指導を念頭にカリキュラムの改訂行っている。中学校は教科書の採択により改訂作業は遅れているものもある。 ②計画通りに進めることができた。 ②児童生徒アンケート「交流活動には楽しく参加できている」の肯定的評価は全体67.7%（小学生72.0%中学生62.7%）である。（前年度＋4.2ポイント） ②保護者アンケート「交流活動は成果がでている」の肯定的評価は71.3%（前年度－1.8ポイント）	①児童生徒アンケート「小中の先生が協力して行う授業は楽しくて分かりやすい」の肯定的評価は全体59.9%（小学生72.7%中学生55.6%）である。（前年度－13ポイント）保護者アンケート「小中の先生が協力して行う授業は良い取組である」の肯定的評価は91.9%である。この結果を真摯に受け止める。以下のような方策を講じる。 ①「学力・体力の向上」という学園の目標達成のために実施をしていく。 ①中学校への乗入れ者のある程度の固定をすることにより、生徒への関わり、授業の進度、内容等への関わりが深くなっていく。 ①「週案」をファックス送信し、当事者が単元や授業進度を確認できる方法を構築していく。 ②小・小の交流を計画的に行う。②気候や目標を精査し交流活動の精選を行う。②児童・生徒代表者会議を交流の中心に位置付け企画等に積極的に関わらせる。

検証項目		（４）　児童・生徒の学力・健全育成 ○　児童・生徒の学習意欲　　○　各学年での児童・生徒の学習内容の定着状況（習得、活用、探究） ○　小学校と中学校の評価の一貫性　　○　不登校、学校不適応等に関わる児童・生徒の指導・支援
目標	学力	①にしみたか「学びのスタンダード」の実践 ②「どの子もわかる」授業づくりをテーマとして研修に取組む
	健全	①合同研修会の開催 ②「にしみたかスタンダード」に基づく系統的な指導
取組	学力	①にしみたか学びのスタンダードを更新「することにより、児童・生徒の基礎基本の定着と学習習慣の確立を目指す。 ②教員の指導力向上に取組む。
	健全	①学園合同教育支援研修会を開催し、児童・生徒理解や適切な支援・指導について理解を深める。 ②保護者・地域住民の学園教育活動への参加を推進し、学校、家庭、地域が連携・協力して児童・生徒を育てる。

成果	課題と改善方策
学力 ①にしみたか学びのスタンダード（学校版）は、9年間を4段階に分け、それぞれの段階でのスタンダードを明確にし、（家庭版）とも連携しながら取組んだ。①児童生徒アンケート「授業はよく分かる」の肯定的評価は全体86.6%（小学生92.4%中学生79.9%）である。（前年度＋1.6ポイント）保護者アンケート「子どもは学習の内容を理解している」の肯定的評価は81.1%（前年度－1.3ポイント）である。 ②学園研究テーマを「児童・生徒の学力向上/どの子もわかる授業づくり」とし、教科分科会ごとに「分かる授業」とはを研究しながら学力向上に努めた。②保護者アンケート「授業は分かりやすく工夫されている」の肯定的評価は82.6%（前年度－2.6ポイント）である。	**学力** ①にしみたか学びのスタンダード（家庭版）＝家庭での取組については定着が低い。「にしみたかカレンダー」に記載し意識を高めていく。①サマースクール、補充教室、質問教室は、ボランティアの活用も行いながら実施した。一層の充実を図る。①英語検定、漢字検定は定着しており、多くの生徒が資格を取得している。小学生にも機会を与え、興味関心の向上を図りたい。①授業サポートの充実を図る。 ②小学校高学年での教科担任制の充実により、一層の専門的指導がや多くの教員の関わりから個性や能力の伸長を図っていく。②ICT機器の不足がある。計画的な指導を行っていく。②「自ら考え表現し伝えあう児童生徒の育成～9年間の指導を通した学びの習慣」をテーマに学園研究に臨む
健全育成 ①学園教員とCS委員が講師から指導を受けた。悩みや指導法、接し方を共有できた。例年3回は合同で研修を実施しているが、交流や親睦にも発展し協働しての取組みの素地となっている。 ①保護者アンケート「子どもは学校で大切にされていると思っている」の肯定的評価は91.5%（前年度－1.5ポイント）である。 ②サポート実績数は、1学期1241名（前年度－387名）2学期1180名（前年度＋94名）である。②「あいさつ運動」「落ち葉拾い」「地域清掃」等には多くの保護者・地域住民の参加をいただいた。地域への広がりを感じることができた。 ②保護者アンケート「自分は、学園や学校に協力している」の肯定的評価は63.5%（前年度－1.5ポイント）である。	**健全育成** ①学園として不登校、いじめ、発達障がい等に関わる児童生徒の指導・支援体制の確立が課題である。個別指導計画を用いての連携を一層密にしたい。 ②児童生徒アンケート「地域の行事に参加している」の肯定的評価は全体47.4%（小学生52.4%中学生43.3%）である。（前年度－6.6ポイント） ②学校の行事日程、部活動の日程とうの調整をする。 ③学園保健教育部主催で、保護者地域向けの「スマホ等勉強会」を開催した。次年度以降も継続していきたい。スマホ等の指導は家庭との一層の連携強化に取組む。

検証項目	（５）コミュニティ・スクールの運営 ○　コミュニティ・スクール委員会の組織・運営　　○　保護者、地域住民の学校運営への参画の状況 ○　学校と保護者、地域住民との連携・交流　　○　その他
目標	①早目で計画的な広報活動の促進 ②サポート活動の更なる充実 ③CS委員、教職員、児童生徒の交流の推進
取組	①「コミュニティにしみたか」誌との連動や、学園ホームページの定期的更新等により一層の広報を行う。 ②サポートの質の向上や「学習補充ボランティア」の参加者の拡大を図る。 ③学園合同職員会議、学園運営委員会等には、CS委員の参加も依頼する。また、CS委員と教員交流会を開催する。

成果	課題と改善方策
①「にしみたか学園小・中一貫たより」の発行と「コミュニティにしみたか」への掲載は計画通り行った。学園ホームページの更新は、児童の様子を中心に行った。 ②サポート活動は、定着はしている。 ③4月の学園合同職員会議において、CS委員の紹介を行った。また、CS委員会を学園公開日に開催したり学園研修会にCS委員の参加を求め、交流を密に行った。	①保護者アンケート「CS委員会の活動内容が分かっている」の肯定的評価は30.3％（前年度－4.6ポイント）である。 ①広報の工夫を継続する。 ②学校の広報の充実や明確な募集の体制を構築する。 ②サポート隊事務局等の組織化などにも取組む。 ②中学校においては、具体的依頼を早目に行い、一層の拡大を図る。 ③複数年計画で各校とCS委員の交流を行う。にしみたかカレンダー等にもCS委員会の広報を行う。

平成27年度　にしみたか学園の評価・検証結果のまとめ

（１）から（５）の検証結果を踏まえて	１　「小中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと 学園研究の充実が図れた。にしみたか学園の児童・生徒の実態から研究テーマを作成し、10分科会を設置した。各分科会ごとに「わかる」とは、を共通理解し具体的手立てを用意し授業実践を行い教師の授業力向上、9年間を通した指導につながった。また教員の交流が密になった。 CS委員会作成の「にしみたかカレンダー」を保護者・地域に配布したところ学校や地域の行事が分かりやすいと好評だった。
	２　今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること コミュニティ・スクール委員会の組織・運営の活性化と充実 交流活動の充実と精選
	３　「２」の重点課題を解決するための改善策 事前の資料配布を徹底し意見の集約を継続する。 意見交換会（熟議）を多く企画し、意見交換を活発にする。 各部の役割を見直し、組織を再構築していく。 学園学校の課題が明確になるような評価アンケート項目を作成す。 学園教育目標達成の視点から見直しと充実を図っていく。